

大学評価のあるべき姿

- 理想像を一つにしぼれるか
 - 多様な評価の目的・方法による多元的な評価システム
- 共通目的は、大学の機能強化、質の向上
 - 特に教育面が重要
- 大学の自主性・自律性強化と相まって、社会に対する大学の質の保証、コミットメントの実現の観点からの評価の確立必要

理想像を実現する際の留意点

- 社会に開かれた評価のあり方(評価結果の公表、大学外評価者の活用等)
- 大学の多様性、理念・個性を尊重する評価のあり方(評価基準・方法、多様な評価機関)
- 教育の評価方法の開発(アウトプット評価等)
- 評価者の養成・確保
- 大学の改革サイクルの一環としての積極的位置付けと学内体制・プロセスの整備
- 評価の負担と効果のバランス